

昭和五十三年九月招集

第三回館山市議會定例会會議錄第四号

館山市議會

目次

発言の訂正	二
議案第四十六号ノ議案第四十八号	三
総務委員会委員長報告	三
同報告に対する和田 一郎君の質疑	四
渡辺軍治郎君の質疑	五
採決	五
議案第四十九号	七
建設経済委員会委員長報告	七
採決	八
認定第一号ノ認定第七号	九
決算審査特別委員会委員長報告	九
渡辺軍治郎君の討論	二
採決	二
議案第五十号	四
内容説明、委員会付託の省略、採決	五
議案第三号	五
内容説明	五
渡辺軍治郎君の質疑、委員会付託の省略	六
渡辺軍治郎君の討論	七
林 豊君の討論	七
採決	八
日程追加・請願書の撤回	八

一、昭和五十三年十月四日(水曜日) 午前十時			
一、館山市役所議場			
一、出席議員 二十七名			
一 番	吉田 勇治郎	二 番	伊藤 幸太郎
三 番	矢野 寿夫	五 番	黒川 平治
六 番	鈴木 正義	七 番	本間 昭二
八 番	松下 正己	九 番	鈴木 稔
一〇 番	流山 源次郎	一 番	近藤 好雄
一二 番	栗原 一雄	一 番	林 豊
一四 番	石井 輝久	一 番	辻田 実
一六 番	安西 益男	一 番	石井 武敏
一八 番	渡辺 軍治郎	一 番	渡辺 昭夫
二〇 番	和田 一郎	二 番	菊井 敏博
二四 番	西村 真次	二 番	伊賀 多朗
二六 番	藤田 益治	二 番	遠山 日ネ子
二八 番	石井 正	二 番	望月 照正
三〇 番	山口 康		
一、欠席議員 三名			
四 番	押元 稔	二 番	田中 禄郎
二二 番	五十嵐 昇		
一、出席説明員			
第一号より教育委員会委員長を除く			
一、出席事務局職員			
第一号に同じ			
一、議事日程(第四号)			

昭和五十三年十月四日午前十時開議

議案第四十六号 館山市災害住宅復旧資金の貸付けに

関する条例の制定について

財産の取得について

議案第四十七号

昭和五十三年度館山市一般会計補正

日程第二 議案第四十九号

昭和五十三年度館山市国民健康保険

認定第一号

昭和五十三年度館山市一般会計歳入

認定第二号

昭和五十三年度館山市国民健康保険

特別会計歳入歳出決算の認定につ

認定第三号

昭和五十三年度館山市と畜場特別会

日程第三 認定第四号

昭和五十三年度館山市国民宿舎特別

認定第五号

昭和五十三年度館山市ユースホステ

ル特別会計歳入歳出決算の認定につ

認定第六号

昭和五十三年度館山市学童災害共済

事業特別会計歳入歳出決算の認定に

認定第七号

昭和五十三年度館山市水道事業特別

会計収支決算の認定について

日程第四 議案第五十号 館山市固定資産評価審査委員会委員の

選任について

日程第五 議案第三号 高齢者医療保障制度の抜本改革に関す

る意見書について

開 議 午後一時開議

〇議長（吉田勇治郎君） 本日の出席議員数二十五名、これより第

三回市議会定例会第四日の会議を開会し、直ちに本日の会議を開

議案の配付

〇議長（吉田勇治郎君） 議案を配付いたさせます。

議案の配付漏れはありませんか。——配付漏れなしと認めます。
本日の議事は、お手元に配付の日程表により行います。

発言の訂正

〇議長（吉田勇治郎君） ただいま、市長より去る二十六日の本会

議における石井輝久君の質疑についての答弁中、一部訂正したい
旨の申し出がありました。

これを許可するに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

〇議長（吉田勇治郎君） 御異議なしと認めます。

（市長半沢良一君登壇）

〇市長（半沢良一君） 去る二十六日の本会議におきまして、石井
輝久議員の御質問中、議案第四十七号のうち、ごみ処理場に隣接

いたします明石建設所有地につきまして、その地目は何であるかという御質問に対しまして、石井部長より雑種地である旨の御答弁をいたしました。誤り、不正確でございまして、現況は雑種地でございますけれども、登記簿は田及び畑でございまして、不正確な御答弁を申し上げまして大変申しわけないと存じますが、そのように訂正をさせていただきたいと存じます。大変恐縮でございました。

議案の上程

○議長（吉田勇治郎君） 日程第一、議案第四十六号乃至議案第四十八号の各議案を一括して議題といたします。

議案第四十六号 館山市災害住宅復旧資金の貸付けに関する条例の制定について

議案第四十七号 財産の取得について

議案第四十八号 昭和五十三年度館山市一般会計補正予算（第三号）

総務委員会委員長報告

○議長（吉田勇治郎君） ただいま議題となりました各議案は、去る九月二十六日の本会議において総務委員会に付託されたものであります。

よって、これより総務委員会における審査の経過並びに結果につき、委員長の報告を求めます。

総務委員会委員長栗原一雄君御登壇願います。

（総務委員会委員長栗原一雄君登壇）（拍手）

○総務委員会委員長（栗原一雄君） 去る九月二十六日第三回館山市議会において総務委員会に付託されました一般議案二件、補正予算一件について、去る九月二十八日委員会を招集し、議案の内容を審査を行い、特に議案第四十七号については本日さらに審査を行いました。その経過及び結果について御報告申し上げます。

まず初めに、議案の審査結果について申し上げます。

議案第四十六号館山市災害住宅復旧資金の貸付けに関する条例の制定について、議案第四十七号財産の取得について、議案第四十八号昭和五十三年度館山市一般会計補正予算（第三号）について慎重なる審査の結果、以上の三議案についてそれぞれ原案のとおり可決すべきものと決定いたしました。

なお、審査の過程において各委員よりきわめて真剣な質疑が行われました。次に、主なる事項について申し上げます。

議案第四十六号につきましては、特に条例がより有効に運用され、不慮の災害で罹災者の早期更生に役立ち、真に市民の福祉を図る観点から、貸付期間を十年にきめたことについては市民サイドから、また市の行政の立場等いろいろの意見の調和を図った結果であるとの説明もありましたが、さらに年間利用件数を想定し、二年据え置き、十年償還の場合等必要財源についても検討を加え論議されましたが、最終的に市長より、近い将来において本委員会の趣旨に沿う方向で検討し、運営したいとの考えが明らかにされましたので、了承いたしました次第でございます。

次に、議案第四十七号につきましては、特に明石建設所有の土地取得の経過について説明を求めましたところ、昭和四十五年に所有権移転の仮登記がなされており、今年四月明石建設から建設

資材等の置き場を目的として、農地法第五条の許可申請がなされ農業委員会は土地の状態等諸条件を勘案して、妥当であるとの意見をつけ、知事に送付、六月に許可証が交付されましたが、地目変更の手続が完了してないので、登記簿の地目は田と畑であるただし、転用許可がなされておるので、地目変更及び地積訂正等一切の手続完了後取得する旨の表明がありました。

また、買収価格については、県の所有分を買収する額が一平方メートル当たり一万五百円、明石建設の所有分は一万七百元であるが、擁壁の石積み分が三百平方メートルくらいできていること、埋め立ても明石建設が行ったことから二百円の差が出たが、これで財産審議会の答申を得たこととであり、なお処理場用地については公共用地として県の鑑定士が評価したとの説明がありました。

次に、議案第四十八号昭和五十三年度館山市一般会計補正予算(第三号)については原案どおり全員賛成可決されました。

以上、本定例会において付託されました議案三件について審査の概要を御報告申し上げました。

満場の御賛同をたまわりますようお願いいたしまして、総務委員会を終わります。

○議長(吉田勇治郎君) 以上で、委員長の報告を終わります。

委員長報告に対する質疑

○議長(吉田勇治郎君) ただいまの委員長報告について御質疑を願います。

○二〇番(和田一郎君) ただいま、委員長報告の中に四十七号財

産の取得についてありますが、明石建設の土地ということがございますが、その地目は農地であるということなんで、明石建設は私は農地を取得するということは、どうも納得がいかないのであります。そのへんのことをお聞きいたします。

○総務委員会委員長(栗原一雄君) 私は、委員会報告といたしましては、田と畑である。このように申し上げておりました、農地であるという発言はいたしておりません。

○二〇番(和田一郎君) ただいま、委員長から田と畑が農地でないような御発言がございましたが、そんなばかなことがありますが、答弁しなさい。

○総務委員会委員長(栗原一雄君) ただいまの御意見でございますが、もちろん委員会の報告は先ほど申し上げたとおり田と畑、これは農地でございます。もちろんただいまの発言のとおり慎重に委員会に付託された案件でございますので、審査いたしてございます。報告したとおりでございます。

○二〇番(和田一郎君) 明石建設が、私が聞いているのは、農地を所有しているわけがないと思うんですよ。明石建設が農地を所有しているわけはないんですよ。だから、だれの所有であるか。明石建設の所有というのは私は私さだかと思うんですよ。よく調べてもらいたいです。

○議長(吉田勇治郎君) 暫時休憩いたします。

午後一時十一分 休憩

午後一時十五分 再開

○議長(吉田勇治郎君) 休憩前に引き続き会議を開きます。

他に御質疑ございませんか。

〇 一八番（渡辺軍治郎君）

私は、議案の四十六号について伺いたいと思うんですが、この問題本会議で石井議員から質問がなされた問題なんですが、一つは災害を受けた人が申請をした場合に、認定は課長がするという答弁があった。これは課長がするという答弁、認定ですよね、審査するわけでしょう。そういうことについて課長がするというようなことがあったけれども、災害が一件ぐらいの場合だったら、二百万が限度ですけれども、しかし天災融資法というようなものがある、八十件というものが制限になつてゐるわけですから、相当大きな災害、そういう救済すべき問題が起こったときに、いろいろ問題が起こると思うんですよ。

そういう点では、課長が審査するんではなしに、審査した結果を審査委員会とか、これは貸出しなんかする場合に審査委員会がありますよね。そういうところにかけるのが妥当じゃないかと思ふんですがね。そういう点で審議がされたかどうか。

もう一つは、これも石井議員が質問した問題ですが、市長がこれを貸付けることが不相当と認めたときは、貸付けなくてもいいというのが三号にあるわけですよね。そのときに重度の刑を受けた者で社会的に不相当というような、そういう発言あったわけですね。

この問題は、地方自治法の第十条で、市の提供する役務は、住民はひとしく受ける権利があるというわけがあるわけですね。そういう点から考えて、人権問題は、刑を受けた人は刑を受けることによって、すでにその犯罪を帳消しという語弊があるかもしれないけれども、服してきた。だから、こういうものを判定する上では非常に基本的人権に触れる。刑を受けたあとで善良な一市

民としてゐる場合、また戸籍でもそういう刑を受けたとか、そういうことは記録してないんです。これは人権に触れるから、そういう問題でこの条項を、市の側の回答がそういうようなことがありますからね。そういう点で、一つは市民税を納めてない者というのは当然だと思ふんですが、そういう内容を審議したかどうかというようなことを聞きたいわけです。

〇 総務委員会委員長（栗原一雄君）

第一点及び第二点につきましては、審査の過程の中では具体的な質問はございませんでした。

〇 議長（吉田勇治郎君） 他に御質疑ございませんか。――御質疑なしと認めます。

討

論

〇 議長（吉田勇治郎君）

これより討論に入ります。

通告がありますので、順次発言を許します。

一八番渡辺軍治郎君登壇願います。

（一八番議員渡辺軍治郎君登壇）

〇 一八番（渡辺軍治郎君）

私は、議案第四十六号館山市災害住宅

復旧資金の貸付けに関する条例の制定については、これは市民の急場を救うために結構な議案だということで賛成するわけですが、ただ問題は、この五条の中に、市長は提出された書類その他について審査のうえ貸付けの可否を決定するということがありますが、本会議の答弁では課長が認定するというような答弁がありました。が、限度額二百万円の貸付けで、災害がかなり大きな場合には相当高額な資金の貸付けをしなければならぬというような事態も発生するわけです。

そういうことから考えて、課長が審査、認定するということは済まされないのではないか。そういう点では、貸付けに対する審査委員会というようなものをつくる必要があるのではないかと、いうことを提言をしたいわけです。

それからもう一つは、いま質疑の中でも申しましたが、市長がこれを貸付けることが不適当な場合ということで、議会の答弁では、重度の刑を受けて社会的に不適当と認められるようなものということが言われましたけれども、この問題については、重度の刑といっても、刑を受けてそして罪に服してきた人でありますから、そういう人が市民として正常な生活をしていけば、当然これは市民の、結局、地方自治法十条にいう住民は、市の提供する役務について、ひとしく受ける権利があるというような観点からみて、この市の側の答弁では、基本的人権に触れる、人権問題がからんでくるということで、この不適当と認めるといふ内容については税を滞納しているものというのは当然であります。が、規程かなんかでもっと具体的に不適当と認めるような事項をつくる必要があるのではないかと。

この二点については、ひとつ検討していただきたいということ要望しまして、議案第四十六号館山市災害住宅復旧資金の貸付けに関する条例の制定について賛成するものであります。

その次に、私は議案第四十七号財産の取得について、反対の討論を行います。

この議案は、正木衛生処理場敷地五千九百五十三・一七平方メートルを三千百二十五万四千二百二十四円で千葉県より買収、あわせて隣接地二千五百十七・七六平方メートルを二千六百九十四万

円で明石建設より買収しようとするものですが、正木衛生処理場は五十四年九月までに移転することになっています。したがって、移転後の跡地をどうするのか、これが問題になります。が、全く考えられていません。使用目的もないのに急いで買収しなければならない根拠はありません。

買収しようとする土地は、予定されているバイパス道路から西に平久里川に添った細長い土地で、将来の利用価値という点でも問題があります。

いま、館山市として用地買収に迫られているのは、衛生処理場の移転先であり、し尿処理場の用地であります。厳しい財政事情の中で必要のない土地を買収することは経費の乱費であり、承認できません。

県が県有地の買収を館山市に要請しているというのが買収の根拠になっているようですが、地方自治法第二条の七では「都道府県及び市町村は、その事務を処理するにあたっては相互に競合しないようにしなければならない」と規定しています。県の要請はこの規定に反するもので不当であります。

よって、議案第四十七号財産取得に反対するものであります。

議案第四十八号昭和五十三年度館山市一般会計補正予算に反対の討論を行います。

この補正予算は、歳入歳出それぞれ三億五千二百二十三万八千円を追加しようとするものですが、歳出四款二項二目十七節公有財産購入費に正木衛生処理場敷地購入費として五千八百十九万五千円が計上されています。この支出は、議案第四十七号財産取得に反対したように時期を得ない不当なものであると認めますので、

承認できません。

よって、昭和五十三年度館山市一般会計補正予算に反対するものであります。以上。

○議長（吉田勇治郎君） 以上で、通告者による討論は終了しましたが、他に通告しない議員で討論ございませんか。——討論なしと認めます。よって、討論を終結いたします。

採 決

○議長（吉田勇治郎君） これより採決いたします。採決は分割して採決いたします。

まず、議案第四十六号について採決いたします。本案についての委員長報告は原案可決であります。

本案を委員長の報告どおり可決することに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（吉田勇治郎君） 御異議なしと認めます。よって、本案は委員長報告のとおり可決されました。

次いで、議案第四十七号について起立により採決いたします。

本案についての委員長報告は原案可決であります。

本案を委員長の報告どおり可決することに賛成の諸君の起立を求めます。

（賛成者起立）

○議長（吉田勇治郎君） 起立多数であります。よって、本案は委員長報告のとおり可決されました。

次いで、議案第四十八号について起立により採決いたします。

本案についての委員長報告は原案可決であります。

本案を委員長の報告どおり可決することに賛成の諸君の起立を求めます。

（賛成者起立）

○議長（吉田勇治郎君） 起立多数であります。よって、本案は委員長報告のとおり可決されました。

議 案 の 上 程

○議長（吉田勇治郎君） 日程第二、議案第四十九号昭和五十三年度館山市国民宿舍特別会計補正予算を議題といたします。

議案第四十九号 昭和五十三年度館山市国民宿舍特別会計補正予算（第一号）

建設経済委員会委員長報告

○議長（吉田勇治郎君） たぞいま議題となりました議案は、去る九月二十六日の本会議において建設経済委員会に付託されたものであります。

よって、これより建設経済委員会における審査の経過並びに結果につき委員長の報告を求めます。

建設経済委員会委員長流山源次郎君登壇願います。

（建設経済委員会委員長流山源次郎君登壇）（拍手）

○建設経済委員会委員長（流山源次郎君） 去る九月二十六日の定例議会で、本建設経済委員会に付託されました議案第四十九号昭和五十三年度館山市国民宿舍特別会計補正予算（第一号）につきまして、九月二十八日午前十時委員会を開き、慎重審議いたしました。

した。その結果及び経過について御報告申し上げます。

議案第四十九号昭和五十三年度館山市国民宿舍特別会計補正予算(第一号)につきましては、出席全委員原案どおり可決すべきものと決定いたしました。

さらに、経過については次のとおりの質疑応答が行われました。給料、賃金の補正は当初予算で予測できなかったかとの問いに対し、調理助手の退職が予算編成時点であり間に合わなかった。賃金については調理助手の退職に伴って、臨時職員の補充と今後の客の増を見通しての臨時職員の賃金である旨の回答がありました。

したので、調理助手の補充はされたかとの質問に対しては、厨房主任、調理士二名で行っており、助手を入れなくとも、夏期は臨時を入れ、あとは応接員が兼務することによって何とかできるものとの考えを聞き、将来の問題として下級職員に対し、制度的に温かい配慮をもらいたいと要望いたしました。

さらに、工事請負費の減額理由をただしましたところ、東電より分電板等が古くなり、取りかえた方がいいのではないかと指摘があり計上したが、その後一応見てもらった結果、今年度は間に合いそうなので減額した旨の答弁がありました。

予備費の三万円増額についてただしましたところ、経営費で三万円減となり、その流用については財務規則に人件費を物件費に流用してはならないとの規定により、また款の移動により議会の議決を経ることが正しい方法と考え、いまだうしても三万円必要ということではないが、今後の不慮の支出ということを考え、予備費に計上したとの説明を受けて了解しました。

最後に、今後の鳩山荘改築について聞いたところ、将来の構想

として改築の必要がある旨の回答があり、特に来年度は三月までに消防法の関係があり、消防法の規定に従う施設とすると相当の金額を要しますので、早急に改築を検討しなければならないと考えている旨の答弁がなされました。

以上、建設経済委員会の審査の概要を御報告申し上げ、満場の御賛同をたまわりますようお願いいたしましたして、報告を終ります。

○議長(吉田勇治郎君) 以上で、委員長長の報告を終ります。委員長報告に御質疑ございませんか。——御質疑なしと認めます。

これより討論に入ります。討論の通告者はございませんが、討論ございませんか。——討論なしと認めます。

採 決

○議長(吉田勇治郎君) これより採決いたします。

本案についての委員長の報告は原案可決であります。

本案を委員長の報告のとおり可決することに御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(吉田勇治郎君) 御異議なしと認めます。よって、本案は委員長の報告のとおり可決されました。

(「議長、休憩願います。」と呼ぶ者あり)

○議長(吉田勇治郎君) 暫時休憩いたします。

午後一時三十三分 休 憩

午後一時三十六分 再 開

○議長(吉田勇治郎君) 休憩前に引き続き会議を開きます。

議案の上程

○議長（吉田勇治郎君） 日程第三、認定第一号乃至第七号昭和五十二年一一般会計並びに各特別会計決算を一括して議題といたします。

認定第一号 昭和五十二年度館山市一般会計歳入歳出決算の認定について

認定第二号 昭和五十二年度館山市国民健康保険特別会計歳入歳出決算の認定について

認定第三号 昭和五十二年度館山市と畜場特別会計歳入歳出決算の認定について

認定第四号 昭和五十二年度館山市国民宿舍特別会計歳入歳出決算の認定について

認定第五号 昭和五十二年度館山市ユースホステル特別会計歳入歳出決算の認定について

認定第六号 昭和五十二年度館山市学童災害共済事業特別会計歳入歳出決算の認定について

認定第七号 昭和五十二年度館山市水道事業特別会計収支決算の認定について

決算審査特別委員会委員長報告

○議長（吉田勇治郎君） ただいま議題となりました各会計決算はともに去る九月二十六日特別委員会を設置し、付議されたものがあります。

よって、これより本決算に対し、決算審査特別委員会における

審査の経過並びに結果につき委員長長の報告を求めます。

決算審査特別委員会委員長菊井敏博君。

（決算審査特別委員会委員長菊井敏博君登壇）（拍手）

○決算審査特別委員会委員長（菊井敏博君） 認定第一号乃至認定第七号昭和五十二年度各会計決算にかかる決算審査特別委員会におきます審査の経過並びに結果につきまして御報告申し上げます。去る九月二十六日の本会議におきまして本委員会に付託されました決算につき、二十九日委員会を招集し、慎重に審査を行いました。

本決算につきましては、すでに監査委員によりまして計数の正確性、予算執行状況の適否等総合的な監査が実施され、その結果計数は正確であり、予算の執行はおおむね所期の目的に沿い適法かつ効率的になされている旨の決算審査意見書が付されており、ところでありますが、本委員会としては、議会の立場より付託の趣旨を体しまして審査を行いました。

審査にあたっては、提出された説明資料に基づき、市当局の考えをただし、あるいは処理状況の報告を求め、さらに今後改善すべき点、検討を要する事項を指摘、要望しつつ審査を行った次第であります。

以下、委員会におきます質疑応答等整理いたしまして、論議されました主な点について御報告申し上げます。

まず、一般会計歳出総務費中、市有建物、自動車等共済制度に加入し、不時の事故に対処されていますが、特に自動車共済対人二千万円の補償については、補償額が増大している現今、時代に適合した補償額を確保するよう、また示談つき制度の導入につい

でも検討し、事故対策に万全を期すよう要望いたしました。

次に、納税組合奨励金については国民年金、国保会計にも計上支出されていますが、今後の考え方についてただしましたところ納税の円滑を図る上から、制度そのものは今後も続け、当面現行のままで進み、問題の生じた時点で検討したいとの考えが示されましたが、時代に即応した方向で検討すべきではないかとの意見がありました。

次に、民生費中、地域ぐるみ福祉活動推進事業の内容について説明を求めましたところ、

五十二年七月モデル地区として指定を受け、実施主体は社会福祉協議会で、地域における福祉需要に対応するため、ボランティア活動、ボランティアの養成を中心に五十二年度は組織づくりを行い、五十三年度から実際に実施する段階であるとの説明がありました。

次に、保育園保育の初任給については大学卒九万五千九百円、幼稚園教諭については十万三千九百円となっており、これが格差是正については将来の問題として検討されるよう要望いたしました。

次に、衛生費中、県公害行政連絡協議会、東京湾岸公害対策協議会負担金が支出され、大気汚染、水質浄化等について協議、調査しておることではありますが、毎年夏になると廃油が流入し水産資源にも影響を与えている現況であるので、これらの実態を十分把握し、会議に反映するよう要望いたしました。

次に、主要な施策の成果に関する報告の中で、し尿浄化槽維持管理指導を行ったと報告されていますが、浄化槽の無届設置に対

する指導について、見解を求めましたところ、

現在、浄化槽は千七百の届出があり、無届設置については、市職員による住民実態調査に合わせて調査したものであるが、業者が手続をしないものが多く、県でも問題化している。建築確認申請の段階でチェックできるが、汲み取りで申請し、実際には浄化槽を設置することもある。建築後の確認を完全に行うよう県に要望している。県においても近く実態調査を実施する旨の説明がありました。

次に、水道事業特別会計繰出金として一億三百五十万円が支出されていますが、今後に対する考え方をただしましたところ、

一億三百五十万円のうち、四千八百五十万円は出資金として支出したもので、今後も建設改良に必要なものについては支出をしていく。残りの五千五百万円については営業費補助であり、これについては財政事情を勘案するが、基本的には独立会計であるので、なるべく少なくしたいとの考えが示されました。

次に、労働費中、労働金庫に対し三百万円が預託され、勤労者の福祉向上にあたっておりますが、組織労働者と未組織労働者に対する融資に差があるのではないかと、また現在の労働金庫の敷地建物が狭いことから、移転に際し協力要請についてどう対処するか、伺いましたところ、

貸付内容は、生活資金が組織労働者百万円、未組織労働者二十万円で、住宅貸付はいずれも一千万円である。また移転、新築については協力依頼を受けて、市としても適地を検討しているが、見当たらないのが現状であるとの説明がありました。

次に、農業振興費中、安房郡市有線放送連絡協議会負担金が支

出されていますが、有線放送実施の状況について説明を求めましたところ、

館山市農協においては今年七月廃止したい旨の通知を受けたが安房郡内では三芳村、富山町、白浜町、千倉町、天津小湊町が実施しているとの説明がありました。

次に、水田総合利用対策として稲作から他作物への転換を百三・四ヘクタール実施したと報告されていますが、どんな作物を指導したか、説明を求めましたところ、

定着力の強いものを指導したが、飼料作物として四十二・二ヘクタール、大豆五・一ヘクタール、野菜三十七ヘクタール、大豆以外の豆類四ヘクタール、花卉花木十四・七ヘクタールが実績であるとの説明がありました。

次に、基盤整備事業の進捗により、農道も逐次整備されてまいっておりますが、今後これが舗装にあたっては工事費の地元負担と合わせて基盤整備事業そのものの負担、改良区への負担金等農家にとっては大きな負担となることを考えるとき、市においては農家負担の軽減に十分意を用いられるよう要望いたしました。

次に、水産業費中、一種漁港の整備については補助率の高い局部改良事業が強く要望されているが、一市町村一事業という制約があり、九つの一種漁港を持つ本市ではなかなか順番が回わってこないのが実情である。このような実情を十分県に反映し、局部改良事業の導入を図られるよう要望いたしました。

次に、観光費中、海岸の環境保全については市としても苦慮され、特に海岸清掃は夏季を主体に市内全地域を対象として清掃にあつておりますが、まだ十分と言えない状況にあり、今後予算

面について配慮されるよう、また北条海岸ヤシ並木については従前より管理委託により保全を図っておりますが、現況から根本的な対策を要望いたしましたところ、専門家の意見を聞いて、新しい管理方法を考えたいとの答弁がありました。

次に、補助金については各款にわたって質疑されましたが、補助金等交付規則に基づく状況報告書の提出等、交付後の事務処理が完全でないものが一部見受けられ、善処を要望いたしましたところ、今後、規則どおり行うよう注意する旨の回答がありました。

次に、流用、充用についても詳細な質疑が行われました。本年度においては流用が四十四件、金額百七十三万八千余円、予備費充用九件、百三十三万六千余円が執行され、いずれも適法な処理であります。決算審査意見書にも指摘されており、また議会の審議権尊重の観点からも、より慎重な配慮を要望いたしました。

次に、歳入中、市税につきましては各税目にわたり詳細に審査を行いました。特に徴収率にありましては九五・九%で、前年度を〇・三%上回り、市当局の努力を認めるところでありますが、財源確保と税負担の公平を期する上から、今後なお特段の努力を要望いたしました。

次に、国民健康保険特別会計中、老人医療につきましては、被保険者の一〇%に当たり、その費用額は二九・五%を占めることから、保険税にも一〇%程度の影響があるものと考えられる。老人医療問題が社会的な問題として論議され、国においても別建てを検討しているが、これが早期実現のため、さらに強力な運動を展開するよう要望いたしました。

次に、国民宿舍鳩山荘については建設後十八年を経過し、老朽

化も進んでいることから、今後の基本的な考えをただしましたところ、来年度あたり予算化し、改築したいとの答弁がありました。

以上、本委員会におきます審査の概要を御報告申し上げますが、本決算書を総体的に見ますと、予算議決の趣旨に沿っておおむねその目的を達し得たものと認め、市当局の努力に対し敬意を表するところであります。

今後なお、財源の確保と合理的な予算執行により、市民福祉の向上と市勢の伸展を図られるよう希望し、本委員会は付託を受けました認定第一号乃至第七号昭和五十二年度一般会計並びに特別会計各決算は、全員一致をもっていずれも認定すべきものと決しました。

以上、本委員会におきます審査の経過並びに結果について御報告申し上げましたが、満場の御賛同をたまわれますようお願いいたします。委員長報告を終わります。

○議長（吉田勇治郎君） 以上で、委員長の報告を終わります。

ただいまの委員長報告について御質疑願います。

御質疑ございませんか。——御質疑なしと認めます。

討 論

○議長（吉田勇治郎君） 討論に入ります。

通告者がありますので発言を許します。

一八番渡辺軍治郎君。

（一八番議員渡辺軍治郎君登壇）

○一八番（渡辺軍治郎君） 私は、認定第一号昭和五十二年度館山市一般会計歳入歳出決算の認定について、反対の討論を行います。

五十二年度決算は、歳入六十一億五千三百二十七万四千円、歳出五十九億三千八百四十万八千円、差し引き二億一千四百八十六万五千円の黒字、単年度で一億五千四百九十六万八千円の黒字になっていますが、前年対比で歳入は六%、歳出は三・三%という僅少の伸び率の中での黒字だけに問題があります。

黒字といっても、市債残高は二十六億八千五百九十六万四千円で、前年対比で二億四千三百七十四万六千円増加しているのです、実質的には八千八百七十七万八千円の赤字ということになります。特に、市債は五十年以来五倍にも達し、不健全財政であることを示しています。

このような中で、五十二年度決算の特徴は市民収奪の決算になっているということです。

市長は、財政構造の改善ということで人件費への攻撃、福祉制度の見直しなど、自治省内示による方針をそのまま実行に移し、中央直結の行政を進めてきました。

言葉の上では、市民生活優先、社会福祉の充実を主張していますが、事実は、受益者負担の解釈を拡大し、利益を受けるものが応分の負担するのが当然と、公共的なものにまで負担を転嫁し、市民生活を圧迫してきました。これが黒字の中身でもあります。

五十二年度決算の使用料及び手数料は一億四千八百八十八万三千円で、前年度より五千万、五一%の増収になっています。五十一年度の増収分五千六百七十四万六千円と合わせると一億円を超え、五十年以来三・八倍の増収率になっています。

また、寄付金という税外負担は二千三百五十六万三千円で、前年対比五〇%の増収になっていますが、内容的には市道舗装四百

三十七万四千円、消防四百七十四万四千円、漁港百九十八万四千円等これらはいずれも公共事業で、市固有の事務として公費で負担すべきものであります。名目は任意であっても、住民相互の負担の公正を期する上からも、寄付金の予算化をやるよう要求します。

次に、固定資産税についてですが、市税の収入未済額が九千二百九十二万四千円あります。そのうち固定資産税の収入未済額は市民税の二倍を超え、四千三百九十二万五千円となっています。

固定資産税は所得に関係なくかかる税であるため、低所得者には大きな負担になります。長引く不況の中では一層深刻であります。また固定資産税の上昇は地代、家賃値上げの引き金になり、社会不安を引き起こすものになります。そこで、来年は土地の評価がえが行われますが、都市計画税の税率アップと重なり、大きな負担増しが予想されますので、小規模の住宅や経営については評価を据え置くよう要望します。

次に、民生費についてですが、歳入では前年対比で国の民生費負担金は三〇%、支出金民生費は一〇%、県支出金民生費負担金は一一%、補助金二五%の増になっていますが、歳出では民生費は九・二%の増にとどまり、福祉は後退しています。特に身体障害者や生活困窮者に補助金は据え置きで、敬老祝金は減額したままです。物価との関係では実質的に切り下げになっているので、改善を要望します。

また、保育所費、児童福祉費の超過負担が三千万円あります。解消に努力するよう要望します。

次に、農林水産業費についてですが、歳入では国の分担金、県

の補助金の増収にもかかわらず、歳出では畜産業費、農地費を除いては微増にとどまり、水産業費では千七百万円の減になっています。

特に、農業委員会事務費は二千三百万円の超過負担になっているので、解消するよう要求します。

市長は、提案説明で産業の振興に努めてまいりましたと言っているが、農林、水産、商工振興費はいずれも微増にとどまり、産業の振興に努めてきたという痕跡は見ることができません。

以上、五十二年度決算の黒字は、市民収奪の上に諸経費の切り詰めによって生み出されたもので、全く反市民的なものとなっています。この点を指摘し、認定第一号昭和五十二年度館山市一般会計歳入歳出決算の認定に反対するものであります。

次に、私は認定第二号昭和五十二年度館山市国民健康保険特別会計歳入歳出決算の認定に反対の討論を行います。

国民健康保険会計歳入歳出決算は、歳入十二億八千五百九十九万三千円、歳出十二億一千四百五十五万四千円、差し引き七千九百九十四万九千円あるの、単年度では三千七百六十七万六千円の赤字になります。

このような中で、国民健康保険税は四億三千七百三十七万三千円、前年対比で三%の伸び率ですが、収入未済額が四千八百八十四万六千円、不納欠損額も九十四万四千円になっています。

これは長引く不況の中で、国民健康保険税が市民生活の上で重荷になっていることを示していると考えられます。

国保会計の中には、毎度問題にしますが、医療と関係のない経

費として保健施設費二千四百九十九万九千円、助産費一千五百九十八万円、葬祭費五百九十一万円、育児費百五十一万八千円、合計四千八百三十一万七千円あります。このうち保健婦と助産費の補助金八百四十四万四千円を差し引いても三千九百八十七万三千円になります。その上、事務費の超過負担が二千四百二十二万六千円、合計六千四百九十九万九千円が保険税にしわ寄せされる結果になっています。

したがって、重荷になっている保険税を軽減するためには、国の負担金、補助金の増額、超過負担の解消、国保税の最高限度額を撤廃する等、制度上の改善が必要であります。

とりあえず、一般会計からの繰り入れを要望し、認定第二号昭和五十二年度館山市国民健康保険特別会計歳入歳出決算の認定に反対するものであります。

○議長（吉田勇治郎君） 以上で、通告者による討論を終わります。通告をしない議員で討論ございますか。——討論なしと認めます。よって、討論を終結いたします。

採 決

○議長（吉田勇治郎君） これより採決いたします。

採決にあたりましては分割して採決いたします。

まず、認定第一号昭和五十二年度一般会計決算について起立により採決いたします。

認定第一号についての委員長の報告は、認定すべきであるとす
るものであります。

委員長の報告どおり認定することに賛成の諸君の起立を求めま

す。

（賛成者起立）

○議長（吉田勇治郎君） 起立多数であります。よって、認定第一号昭和五十二年度一般会計決算は委員長の報告のとおり認定することに決しました。

次いで、認定第二号国民健康保険特別会計決算について起立により採決いたします。

認定第二号についての委員長の報告は、認定すべきであるとす
るものであります。

委員長の報告どおり認定することに賛成の諸君の起立を求め
ます。

（賛成者起立）

○議長（吉田勇治郎君） 起立多数であります。よって、認定第二号国民健康保険特別会計決算は委員長の報告のとおり認定すること
に決しました。

次いで、認定第三号乃至第七号の各特別会計決算について一括
して採決いたします。

認定第三号乃至第七号についての委員長の報告は、認定すべき
であるとするものであります。

委員長の報告どおり認定することに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（吉田勇治郎君） 御異議なしと認めます。よって、認定第三号乃至第七号の各特別会計決算はいずれも委員長の報告のとおり認定することに決しました。

（「議長、二〇番」と呼ぶ者あり）

議案の上程

○議長（吉田勇治郎君） 日程第四、議案第五十号館山市固定資産評価審査委員会委員の選任についてを議題といたします。
議案の朗読を願います。

（書記朗読）

議案第五十号 館山市固定資産評価審査委員会委員の選任につ

いて

議案の内容説明

○議長（吉田勇治郎君） 議案の説明を求めます。

（市長半沢良一君登壇）

○市長（半沢良一君） 御説明を申し上げます。

福島信治君は現在固定資産評価審査委員会委員をしており、十月五日をもって任期満了いたしますので、同君を再任いたしたいと思うのでございます。同君が最も適任者であると確信をいたしますので、この選任につきまして御承認を得たいと思うわけでございます。

○議長（吉田勇治郎君） 説明は終わりました。

御質疑を願います。

御質疑ございませんか。——御質疑なしと認めます。

委員会付託の省略

○議長（吉田勇治郎君） お諮りいたします。

本案については委員会の付託並びに討論を省略、直ちに採決す

ることに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（吉田勇治郎君） 御異議なしと認めます。

採決

○議長（吉田勇治郎君） これより採決いたします。

固定資産評価審査委員会委員選任について同意を求める件は、これに同意することに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（吉田勇治郎君） 御異議なしと認めます。よって、本件はこれに同意することに決しました。

議案の上程

○議長（吉田勇治郎君） 日程第五、発議案第三号高齢者医療保障制度の抜本改革に関する意見書についてを議題といたします。

議案の朗読を願います。

（書記朗読）

発議案第三号 高齢者医療保障制度の抜本改革に関する意見書について

議案の内容説明

○議長（吉田勇治郎君） 提出者の説明を求めます。

（二三番議員菊井敏博君登壇）

○二三番（菊井敏博君） 発議案第三号高齢者医療保障制度の抜本改革に関する意見書について、提案理由を御説明申し上げます。

現行の老人医療制度の抜本改革につきましては、かねてより関係諸団体において強く要請し、国においても種々検討されておりますことは御承知のとおりでございます。

なお、本市議会といたしましても、すでに昨年九月定例議会において、高齢者医療保障制度確立に関する意見書を関係機関に提出いたしておるところであります。いまだこれが実現をみておりませんことは、まことに遺憾であります。

したがって、再度問題の重要性にかんがみ、五十四年度予算編成期にあたり、高齢者医療保障制度抜本改革の早期実現を期すべく、関係団体あげて強力な運動展開の一環として、お手もとに配付のとおり七名の賛成者を得て、本意見書を提出いたしました次第でございます。

なにとぞ、満場の御賛同をたまわりますようお願いいたします。提案理由の説明といたします。

○議長（吉田勇治郎君） 以上で、説明は終わりました。

質 疑 応 答

○議長（吉田勇治郎君） 御質疑を願います。

○一八番（渡辺軍治郎君） この意見書案を見ますと、要するに保険会計といえますか「医療保険の全般的な財政難、特に制度的に著しく多数の老人を抱える国民健康保険」というふうに言われているようですが、先ほど説明の中で一〇%ぐらいという老人医療のことが出ていますが、この財政難というのは、ただ老人だけではないに、医療費の上昇とかいろんな関係があって、さっき国民健康保険の中でも言いましたが、制度上の問題だと思っておりますが、

国民健康保険制度の中でも、制度上改革しなければならないものはたくさんあると思うんですが、それをしないで、公費負担要するに福祉としてこれを取り扱うようにということなんですが、その点はどういうふうに考えていますか。

○二三番（菊井敏博君） 私は、この発議案の提案者の説明者として、昨年九月定例議会において、この医療保障制度の意見書をそれぞれ関係者の方に出してあるわけでございますが、この予算編成期にあたりまして、いまこの重要性をかながみて一日も早く、要するにこれをやってももらいたいという趣旨から、今回の意見書の提出をしているわけでございます。そのように御了解を願いたいと思います。

○議長（吉田勇治郎君） 他に御質疑ございませんか。――御質疑なしと認めます。

委員会付託の省略

○議長（吉田勇治郎君） お諮りいたします。

本案については委員会の付託を省略したいと思えます。

これに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（吉田勇治郎君） 御異議なしと認めます。よって、委員会の付託は省略することに決しました。

討 論

○議長（吉田勇治郎君） 討論に入ります。

（一八番議員渡辺軍治郎君登壇）

〇 一八番 (渡辺軍治郎君)

この意見書の内容を見ますと、医療保険の全般的な財政難というようなことから出されているわけです。

いま、政府では、老人医療費無料化を、一部の意見としては有料化も考えなければならぬのではないかとというような意見も出ているわけです。こういう際に、医療保険の上から除いて社会福祉としての予算編成というような、そういう状況の中で有料化される心配もあると思うんです。

もう一つは、国民保険歳入歳出決算の中でも、私が制度上の問題として述べましたように、保険税にしわ寄せされるものが六千四百九十九千円あるわけです。このほかに上限というか、国民保険税の最高限度額の制限があるわけです。この制限を除けば一億円以上の収入もみられるわけです。

こういう制度上のものが改善されないまま、この意見書のように政策の転換を求めるといふようなことについては、私は納得できないわけです。

まず、いま保険会計の中で改善しなければならない問題を、私は国の負担金、補助金の増額、超過負担二千四百万円の解消、国保税の最高限度額の撤廃というような問題を提起したわけです。そういうような観点から言えば、いまの国民健康保険会計の財政の中で、もっとも改善すれば、これは単に老人医療費がかさむというだけではないわけです。医療費の上昇とか、それからだんだん年々といけば過労によって医者にかかる人もふえるし、これはいまの国民健康保険税が相互扶助というような形でやられているために、どうしても保険税が高くなるというような問題もあります。まだまだ制度上改善すべき問題がたくさん残さ

れているという点から考えて、この福祉の問題として保険会計から切り離していくということでは、いまずぐということでは問題があるのではないかとこのことを考えますので、この意見書には賛成できません。反対するものであります。

〇 議長 (吉田勇治郎君)

他に賛成の討論ございませんか。

(一三番議員林 豊君登壇)

〇 一三番 (林 豊君) 私もこの意見書の提出について賛成をいたしました賛成議員の一人として、賛成の立場から討論を申し上げます。

ただいま、一八番議員君より、この意見書の提出について、内容について不十分なる点があつて賛成はできないというような討論がございましたけれども、この内容にも書いてあるとおり、抜本的な改正をするんだということは、ここに明確にうたわれております。

仄聞するところによりますと、全国の市長会あるいは知事会、全国市議長会あるいは町村議長会等々いろいろの団体におきまして、この医療制度の改革につきましては、十分なる検討が加えられているところであります。この改正がなされるときには、渡辺議員のおっしゃるような相互扶助の問題等そういうことは十分検討されることであり、なかならず私は高齢者の医療というものが現国民健康保険会計におきまして、保険制度の根本をゆるがすような重大な要因となつておるといふふうに考えておりますので、この際、あえて高齢者の保障制度を改正してくれということを強く要望するということで意見書を提出したわけでございますので、そこらへんは十分に政府の段階においても検討の方向で協議

されておると確信をいたしました、この意見書を提出するわけでございます。よろしくお願いをいたします。

○議長（吉田勇治郎君） 他に討論ございせんか。——討論なしと認めます。よって、討論を終結いたします。

採 決

○議長（吉田勇治郎君） これより採決いたします。

本案の採決は起立により行います。

本案を原案どおり可決するに賛成の諸君の起立を求めます。

（賛成者起立）

○議長（吉田勇治郎君） 起立多数であります。よって、本案は原案どおり可決されました。

日 程 の 追 加

○議長（吉田勇治郎君） この際、お諮りいたします。

総務委員会において継続審査中の請願第一号日中平和友好条約締結促進に関する請願書について、請願人代表者より撤回したい旨の申し出がありました。

この際、請願第一号撤回の件を日程に追加し、議題とすること
に御異議ございせんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（吉田勇治郎君） 御異議なしと認めます。よって、この際請願第一号撤回の件を日程に追加し、議題とすることに決しました。

請 願 書 の 撤 回

○議長（吉田勇治郎君） 請願第一号日中平和友好条約締結促進に関する請願書撤回の件を議題といたします。

ただいま議題となりました請願第一号撤回の件については、これを承認することに御異議ございせんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（吉田勇治郎君） 御異議なしと認めます。よって、請願第一号撤回の件については、これを承認することに決しました。

閉 会

午後二時二十三分開会

○議長（吉田勇治郎君） 以上で、本定例会に付議されました案件はすべて議了されました。

よって、これにて第三回市議会定例会を閉会いたします。

○本日の会議に付した事件

一、発言の訂正

一、議案第四十六号乃至議案第五十号、認定第一号乃至認定第七号

一、発議案第三号

一、日程追加、請願書の撤回

地方自治法第二百二十三条第二項の規定により署名する。

館山市議会議長 吉 田 勇 治 郎

館山市議会議員 栗 原 一 雄

館山市議会議員 渡 辺 昭 夫

